



International Sound Articulation & Adjustment Association

No. 03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

1) 調音研究について

人間は五感によって現実世界を認知しています。しかし、目に映る風景は視覚からのみ得ているのでしょうか？例えばテレビで同じシーンであってもBGMで印象が変わることはありませんか？実は人は五感の刺激の相互作業（クロスモーダル／マルチモーダル）によって現実世界を認知しています。それを積極的に使った臨場感を感じさせる技術もあります[1]。

特に音環境については、先ほどのBGMのように勝手に耳に入ってくるとまでは言いませんが「自然と聞こえてくる」音の影響を受けており、聞き手が話し手の言葉を理解するまでの流れをスピーチチェーン[2]と言います。図1はそれを日本語表記かつ心理的、言語学的、生理学的、音響学的レベルで示したものの[3]で「人が誰かに話した際、話す内容を脳で考え、口を動かし、自分の声を自分で聞きながら調整し、空間を音が伝搬し、耳に届いた後に、脳で認知する」までを表現しています。

本協会は図にある音響学的レベルに着目し、特に部屋の環境によって「届くべき音波」が「認知しやすく受け取れる」ように空間の音環境を調えることに着目しています。音声における調音が「声帯を音源とし、口から発せられる音波」へと調べられることと同様に、本協会では「音源が人の耳に届くべき音波」へと調べられることを調音と呼んでいます。そこで、スピーチチェーンにならない図2のように3つのブロックを研究領域としています。図の「音の伝わり」と「音のみなもと」がスピーチチェーンの部分となります。音楽の収録は「音のみなもと」を「メディア記述（収録）」し「音から得るもの」として編集すると音楽配信サイトで楽しめるコンテンツとなります。そのコンテンツの例としてテレビ鑑賞は、テレビが「音のみなもと」となり「音の伝わり」により人に届くということです。

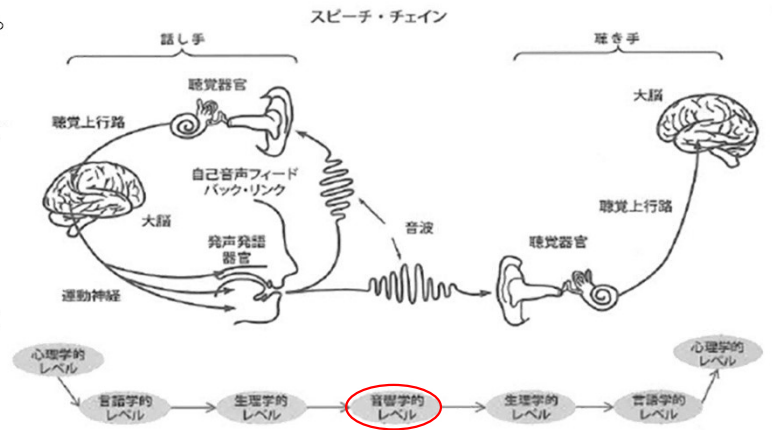


図1 話す内容が耳に届き認識するまで [2]

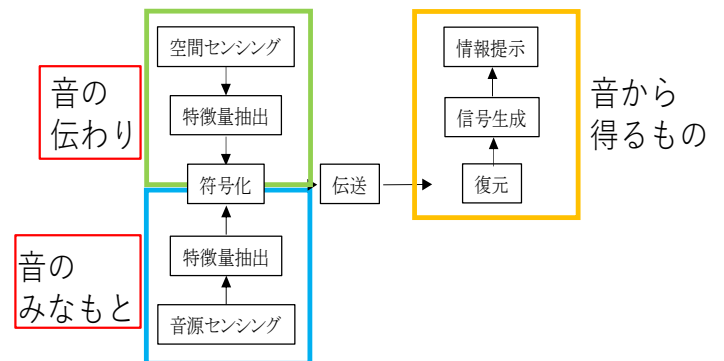


図2 調音研究が扱う領域の概念図

【参考文献】

- [1]盛川浩志, “超臨場感技術の基礎 五感と認知～感覚ディスプレイ技術とクロスモーダル刺激の知覚～”, 映像情報メディア学会誌, pp.610-614, 65巻, 5号, 2011年
- [2]山田弘幸, “言語聴覚士のための心理学”. 医歯薬出版, 東京, 13, 2012
- [3]Peter B Denes and E. Pinson, The Speech Chain, New York, USA:Worth Publishers, 1993, <https://books.google.co.jp/books?id=ZMTm3nIDfroC>





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

2) サウンドソムリエ検定2級の実施と今後の予定について



2024年3月23日、福岡にて第9回サウンドソムリエ検定2級を開催致しました。認定された方は、自宅や勤務先での音問題へ、自力での対処が期待できる人材になります。検定の認知度向上と検定受検者の増加を課題と捉え、今後も継続開催致します。

次回以降のスケジュールは以下の通りです。

【東京会場】

2級：6/8（土）12時～15時

1級：6/8（土）13時～16時



2級



1級

【大阪会場】

2級：7/27（土）12時～15時

1級：7/27（土）13時～16時



2級



1級

3) 音のユニバーサルデザイン事業

当協会では、聴覚過敏などでお悩みを持つ方が通う施設へ「調音」を通じた音のユニバーサルデザイン活動をしています。活動の一つとしてカームダウンボックスの無償貸与をしています。

・茨城県守谷市立黒内小学校へカームダウンボックスの無償貸与（2023年12月）



ホームページ



茨城県の守谷市立黒内小学校へ社会福祉法人東京都共同募金会さまの配分金で購入したカームダウンボックスを無償貸与いたしました。

～以下施設からの感想です～

特別支援学級が9クラスあり（知的障害特別支援学級2クラス、自閉症・情緒障害特別支援学級6クラス、言語障害特別支援学級1クラス）、カームダウンを必要としているお子さまが多い状況ですが、空き教室をはじめとする静かに過ごせる場所が殆どありません。→





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

最初は「何これ～?」「入っていい?」と物珍しさから相談学級で学習する子が入りだし、「何だか落ち着く」と特定の子が数名、定期的に入るようになりました。ある子は、休み時間に嫌なことがあり、別の教室でパニックをおこし、その場を離れられずに号泣していましたが、担当者がカームダウンボックスまで連れていくと、「ここで落ち着きます」と自発的にボックスに入りました。しばらく泣き声が聞こえていましたが、5分ほど入っただけで「もう落ち着きました」と出てきて、教室に戻ることができました。

気持ちが高ぶった際に、わざわざ他の学級に入りに行くことはハードルが高いので、気軽に入りに行ける工夫を、運営側は必要だと感じました。

また、ボックス内にLEDライトや生徒自作のランプシェード、オイルタイマーを入れる等の工夫をしたところ、持ち込んだオイルタイマーをLEDライトにかざして光を眺める子どもたちが何人かおり、一度入るとしばらく出てこなかったのも、聴覚だけでなく視覚的にも子どもが過ごしやすい環境になったようです。



※オイルタイマーとは

水と油の性質の違いを利用して作られた液体の砂時計のようなもの。オイル・モーション・プレイタイマー・リキッドタイマー・液体時計・水時計とも呼ばれている。

タイマーといっても正確に時間を計るものではなく、液体が玉になって落ちていく様子を楽しむインテリアアイテムとしての意味合いが強く、癒やし目的で購入する人も多い。

また、おもちゃとして子ども用に購入されることが多いのも特徴。見せると子どもが静かになったなどの口コミもあるので、小さな子の興奮を落ち着かせたり泣き止ませたりしたいときにも活用が期待できる。

・療保園いろはへカームダウンボックスの無償貸与（2023年12月）

ホームページ



江東区の療保園いろはへ社会福祉法人東京都共同募金会さまの配分金で購入したカームダウンボックスを無償貸与いたしました。

長時間の療育・保育・習い事ができる療保園で、それぞれのお子さまにあった保育を様々な選択肢の中から提供しております。

～以下施設からの感想です～

施設にて毛布やぬいぐるみなどの気持ちを落ち着けるためのグッズを用意したところ、初日から子どもがリラックスして過ごせました。段々と子どもたちもカームダウンボックスの存在に慣れ、自分の気に入りのグッズを持って入る姿が増えました。

自分の好きなタイミングで入れるので安心感があるだけでなく、過ごす場所の選択肢が増えたことで他の子どもの大きな声や泣き声が苦手な子の安心スペースになっています。→





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

また移動が簡単なので、活動の内容によって場所を移すことができ、便利と好評でした。ただ、上に登りたがるお子さんがいるため、注意が必要です。

気持ちを落ち着かせるための使い方以外に、意図的にボックス前に死角を作ることで、かくれんぼ等の遊びに発展させたり、ボックスを一室として他の子どもとの活動を分けたいときにも利用致しました。同じ空間で過ごすことで自然と子ども同士の交流が増え、友好関係が広がったように感じました。

・お台場学園港陽小学校へカームダウンボックスの無償貸与（2023年12月）



ホームページ

港区立小中一貫教育校 お台場学園港陽小学校へ
社会福祉法人東京都共同募金会さまの配分金で購入したカームダウンボックスを無償貸与いたしました。
この学校には「そよかせ教室」という特別支援教室があります。一人一人の困り感に応じて、週に1～2時間だけ在籍している学級を離れ、個別や小集団での特別な授業を行っています。

～以下施設からの感想です～

今回は2階にある職員室前に設置しました。今までは同2階の図書館にあるソファで気持ちを落ち着かせていましたが、オープンな環境のため周りの音が気になってしまうという悩みがありました。

運用にあたって、ルールがないと教室を出たまま帰ってこない児童がいて困ることから、カームダウン使用希望カードを作成・配布し、使いたいときには職員に渡すという形にしました。

子どもが実際にボックスを使っている様子を見ていて、気持ちが切り替わっていくことが分かりました。設置したことにより、気持ちが落ち着かない子どもに対して「ちょっとカームダウンボックスに行っておいで」と声をかけることで、休み時間などにカームダウンボックスで落ち着かせることができ、授業時には一緒に教室へ戻ることができました。先生方からも、実際に体験をしてみて、「落ち着く」「ずっといたい」「音があまり聞こえないところが良い」と好評でした。

子どもからは、「カームダウンボックスの中に入ると、心がさあーっとなって落ち着いた」「あまり音が聞こえないので、イライラしていても落ち着く」「気持ちを切り替えたい時に使えてよかった」といった感想のほかに、「カーテンが下りているときは使っている人がいるから、静かに廊下を歩こうと思った」という思いやりの言葉もあり、子ども同士でも配慮しあっている様子が分かりました。





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

・足立区某学校へカームダウンボックスの無償貸与（2023年12月）



足立区の某特別学校へ社会福祉法人東京都共同募金会さまの配分金で購入したカームダウンボックスを無償貸与いたしました。

～以下施設からの感想です～

感覚過敏（感覚防衛反応）の子どもが複数いるクラスに設置しました。設置当初は、様子見でしたが、そのうち長く入ってみる子どもが現れました。入ってみると静かな環境だということを理解したようで、2週間経ったあたりから、登校後すぐにボックスに入り、5分ほどして落ち着いたら出てきて、授業の支度を始める子どもがでてきました。また、授業中に落ち着かなくなった際、自ら走り込むようにボックスに入り、不織布のカーテンを下ろし、5分ほどすると落ち着いて授業に戻る子どももいました。

担当者自身もカームダウンボックスを体験して、耳への圧が減り、頭が楽になると感じただけでなく、通常はこんなにも耳に音圧がかかっているのかということが分かりました。子どもにとって、安心できる場所が教室の中にあるというだけでも心の安定に繋がると感じました。

※感覚防衛反応とは

聴覚過敏は感覚防衛反応の一つともいわれています。私たちもガラスを爪でひっかく音や、黒板に爪をたてた音を不快に感じますが、音の波形でいうと、とんがった波の音や高い周波数のとき、音圧の高いときに、脳の回路は識別しにくい音として受け止め、脳が警戒態勢をとりはじめます。この回路が過剰にはたらいたときに出てくるのが聴覚の感覚防衛反応です。





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

・宇検村児童クラブへカームダウンボックスの無償貸与（2023年12月）



ホームページ



鹿児島県大島郡宇検村にある児童クラブへ社会福祉法人東京都共同募金会さまの配分金で購入したカームダウンボックスを無償貸与いたしました。

～以下施設からの感想です～

カームダウンボックスは、気持ちを落ち着かせるというリラックス効果だけでなく、集中したい時にも効果を発揮しました。児童クラブでは、勉強や読書、遊びなど様々なことをする場所のため、カームダウンボックスの使い道も多岐にわたっています。実際、あるお子さまは、カームダウンボックスを気に入り、読書の際にはよく利用しています。また他の子からは、静かで眠くなる、リラックスできると声がありました。

・川崎市立田島支援学校からのカームダウンボックスの利用報告



ホームページ

昨年より川崎市立田島支援学校へカームダウンボックスを無償貸与しておりました。

ご担当者様より「暴れている子が落ち着ける空間として自発的に入るようになった」「iPadなどを持ち込んでリラックスする子がいた」とご報告がありました。カームダウンボックスの下にカーペットや毛布を敷くとより快適な空間となりますので、カームダウンボックスとカーペットをセットにしてみてもどうかのご意見もいただきました。今後の参考にいたします。

お子さまからも大変ご好評だったようで、今後も継続して使っていききたいとのことでした。





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

特別編) シリーズ: 音を知る

②高い音から聞こえなくなるのはなぜ?

音は図1にあるように、耳たぶがある「外の世界」から音が入り、鼓膜に届きます。鼓膜の揺れが伝わる先が「蝸牛」という耳の器官です。

この蝸牛（カタツムリの殻のように巻かれています）を引き延ばすと図2のようになります。鼓膜に近い場所が高い音（図では1600Hz）を感じる場所で、右に行くほど低い音（図では400Hz、100Hz）となります。すなわち、どんな音が耳に入っても「高い音を聴き取るための神経」は刺激を受けるということです。

基底膜※1が揺れるとそこにある神経が刺激され、一定量以上の刺激があると「聞こえた」になります。つまり、「聞こえた」にならなくても「神経は刺激される」ことがわかつています。

神経は刺激されると、聞こえをアシストする「外毛細胞」の毛のような細胞が抜けてしまいます。するとアシストが無くなるので聞こえづらくなります。これによって、耳元で話されると「うるさい」と言われるのに、小声で話されると「聞こえない」という現象を生じます。

もうお分かりですね？鼓膜の近くから高い音の神経があるということは、刺激にさらされた外毛細胞が抜けてくるので、高い音から聞こえなくなることです。残念ながらこの細胞は再生できません。強すぎる刺激には要注意です。ちなみに、イヤホン等で好きな音楽を聴いていると「好きな音楽に含まれる特定の音」の神経の抜けが早くなり、聞き間違いを起こすことがあります。

鼓膜に近い基底膜の幅は図3に示すように幅が狭く（幅の寸法が短い）、奥に行くほど広く（寸法が長く）なります。波の波長が短いものを「高い音」と言い、長いものを「低い音」と言います。この波長に関してはサウンドソムリエ2級で学びます。

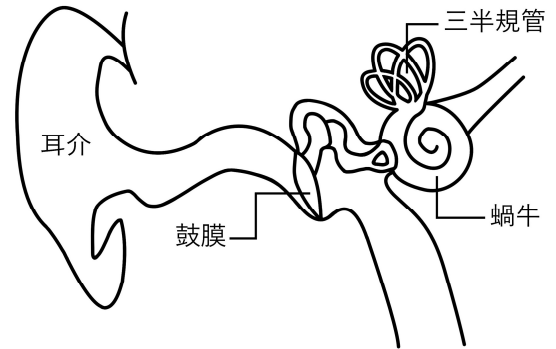


図1 耳たぶ（耳介）から鼓膜そして蝸牛

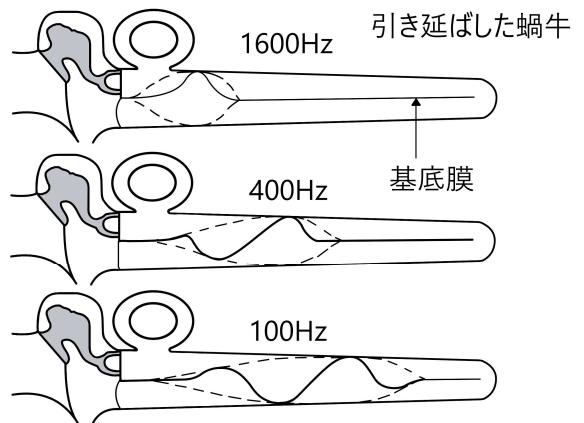


図2 蝸牛の入り口で高い音を検知

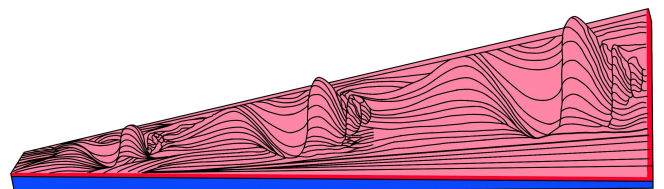


図3 蝸牛の入り口は幅が狭い／波長が短く奥は幅が広い／波長が長いことを示した模式図

※1 蝸牛内にあり、振動を伝える膜。





International Sound Articulation & Adjustment Association

No. 03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

4)その他

◎各種SNSの開設・運営につきまして

前回のレポートにも記載いたしましたが、「tobiraco」さまのX(旧Twitter)でカムダウンボックス無償貸与について投稿していただいた際、多くの反響がありました。当協会の活動内容に共感、興味を持って下さり、よりSNSを通じた発信活動に力を入れていこうと考え、実行しております。

公式HPでは各施設への貸与時、引取時、貸与中にいただいたお声や活動報告レポートをもとに記事を作成し、掲載しております。XとFacebookではHPに記事を掲載した報告やお知らせを、Instagramでは貸与時のお写真を中心に投稿しております。今後は全ての媒体において、より投稿頻度を増やすだけでなく、UD活動以外の部分にもフォーカスを当てていきたいと思っております。

◎Yahoo!ニュースに掲載されました

2024年2月、Yahoo!ニュースに当協会の取り組みおよびカムダウンボックスに関する記事が掲載されました。

これは、神戸新聞社をはじめとする、関西新聞社が集まって作るニュースサイト「まいどなニュース」の取材による記事が転載されたものです。記事の内容については、以下へアクセスしてください。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/64e2f065ecec60d1be8054da1cb2b0e36740cfbdd>



子どもが偶然もぐり込んだ空間→「居心地よさそう!」と開発のきっかけに 試作品は無償貸与「欲しくてしょ!全部の学校に!」

2/13(火) 7:05 配信

まいどなニュース



放課後デイサービスで「集中して人の話が聞けなかった子が、ボックスの中だと話が聞けるようになった」、小学校の職員たちからの「雑音が減った」というアイテム紹介がX(旧Twitter)で話題に。開発秘話を聞きました。

【写真】こんな感じで置かれています

東京都共済会会の「赤い羽根募金」で購入した「カムダウンボックス」を池袋小学校に提供(「国際調音・整音協会」公式サイト)『UD』池袋小学校にカムダウンボックスを提供しました』より

それは、大人には聞こえない周波数の音やノイズなどを吸収する素材で作った「カムダウンボックス」です。投稿したのは、発達に課題を抱えた子どものために開発された道具を販売するネットストア「tobiraco」のアカウント。一般社団法人国際調音・整音協会(以下、「国際調音・整音協会」)が、試作中の「カムダウンボックス」を学校や放課後デイサービスなどの施設におこなっている無償貸与を紹介するためでした。

5)運営メンバーより

日頃は当協会の活動への多大なるご支援・ご協力を頂き感謝申し上げます。

・理事長 福島学より

音に関して取り組む組織は、(一社)日本音楽事業者協会、(一社)日本オーディオ協会、(一社)日本音楽健康協会、(一社)日本音響材料協会、(一社)日本音響学会、(公社)日本騒音制御工学会、(公社)日本舞台音響家協会、(一社)日本音響家協会、(一社)音楽制作者連盟、(一社)音楽電子事業協会、等々多くの団体があります。

しかし「日々の暮らしの質(QoL: Quality of Life)」という視点に立った「音」を扱うことは少ない状況でした。一方で避難所に居ることに困難を感じる方々や、原因不明の健康被害に困られている方々と出会い、その原因を探索する中で「音環境」にその原因があることに辿り着きました。日本の高度経済成長期には「騒音」という「害」をなすものが社会問題となり「騒音対策/うるささ対策」の取り組みがなされてきました。その時期を乗り越えた現代は「生活の質/快適さ」に目を向ける時期に来ているのではないかと感じています。

そこで先人の知恵をより多くの方々にお役に立つように新たな解釈を加えた「調音(音環境を調える)」、オンラインのメリットやコンテンツの豊かさに寄与する「整音(音そのものを整える)」に目を向けた団体として旗揚げいたしました。 →





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

「快適さ」は「その人が持つ能力を存分に発揮できるようになる」ことだと私は考えております。「周囲の音が気になる」と思われる方がいらっしゃるのではないのでしょうか？快適であれば、本来朗らかで穏やかな方であるにも関わらず、「場所によるストレス」で眉間に皺が寄ることがあります。少し音環境を調えるだけでこのストレスを緩和することができます。

当団体では、過敏症をはじめとする急を要する方々への協力として、カームダウンボックスという手段や価値の周知をユニバーサルデザイン事業として展開しております。まだまだ歩み始めたばかりの団体ですが、おかげ様で少しずつ、実際に利用していただくことでその効果を実感していただいております。健康被害の要因である睡眠の質についても研究事業として取組を進めております。さらに多くの方々に「音」について知っていただき、もしかすると自分も抱えている困りごとに気付き、対策することでQoLを自ら向上していただきたいと思い、サウンドソムリエ検定を開催しております。

サウンドソムリエ2級は、音を知り困りごとに気付くことを目的として開催しています。ここでは「実体験と種明かし」の形式で開催しております。学ぶ内容は、音の基本（用語・単位・音の正体、音の三要素、音の速度、調音）と遮音・吸音・調音に関する簡単なアドバイスができるレベルです。続く1級は「2級で知った／気付けた困りごと」に加えて、騒音（用語・法令）、材料工学、数学、物理、周波数解析、調音について学びます。

2023年度はサウンドソムリエ1級者の誕生を迎え、また近畿地区での検定開催を果たしました。今後も多くの方々に日常の音を知っていただく事と少しでも多くの方々と困りごとの解決に向けて取組みを進め行く所存です。

・副理事長 窪田泰也より

サウンドソムリエ検定2級の講習会及び認定試験を行いました。今までの受講者の傾向として、建築関係及び設計事務所関係の方が多く受講されています。これは日常の設計業務や建築工事で音の問題に直面した経験があるからだと思われます。しかし、当協会としましては福祉関連の方にも多く受講していただきたいのですが、ほとんど受講者がいないというのが実状です。これは、もしかすると色々な施設の中でも音の問題があるにもかかわらず、半分諦めているのではないのでしょうか。きっと、受講すれば解決できるヒントがあると思いますので、これから福祉関係の方にも幅広くアピールしていきたいと思っております。

講習会テキストについては、内容が第1回から徐々に増えていき、今回ついに86ページにおよびました。これはみなさんに色々お話ししたい、お教えしたいと思っているうちに膨らんでしまったためです。これはとても3時間で説明できる内容ではなく、受講者も大変だったと反省しております。次回、第10回から少しすっきりした内容に再編いたしますので、よろしくお願いいたします。→





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

また、2月から3月にかけて、専門学校の声優科アフレコ室の工事に関して、当協会として二室（A室・B室）の設計・調音のアドバイスをいたしました。設計に関しましては、やはりスタジオ並みの仕様が理想であります。限られた予算内で理想の室内音響に近づけるという大変難しい課題でした。そこで最初のアドバイスとして各室内の壁面及び天井と床面について、5%の傾斜を設け、平行面を無くし躯体下地を作りました。平行面が無くなることで、フラッターエコーを抑えることはできますが、やはり遮音壁ですので壁自体が硬くほとんどの周波数帯を反射させてしまいます。そこでフラッターエコーや響きを無くすために完成後の壁面にT社製調音材内蔵パネルを設置し調音を行いました。反射の位置方向を検討しながら設置しましたので、位置的には少しばらつきましたが、結果として録音スタジオに近い音響空間になり先生方にも大変喜んでいただきました。



・理事 柿塚英樹より

皆様、「センサリールーム」という言葉をご存知でしょうか？これは特に感覚過敏を持つ方が、周囲の刺激から保護され、安心して時間を過ごせるように設計された空間のことを指します。

この度、広島のスッカースタジアム「エディオンピースウィング広島」に設置されたセンサリールームは、スタジアム設計の段階からその計画に含まれていました。このセンサリールームの実現には、広島市の歯科医である杉岡英明氏が多大なる貢献をされました。

私が、このセンサリールームについて杉岡先生と話す機会を得たのは、共通の友人N氏に当協会のカムダウンボックス貸出事業の話をしたところ、是非会わせたい人が居ると杉岡先生を紹介してくれたことがきっかけです。

杉岡先生は、発達障がいを持つ子どもたち向けに特化したサッカープログラム「さっかありょういく」を提供する日本発達支援サッカー協会の代表理事であり、その活動を通じて広く認知されています。杉岡先生のこのような取り組みは、スタジアムにセンサリールームを導入する理念とも深く共鳴していることから、スタジアムのセンサリールームの設計と整備について、アドバイザーに選任されました。この取り組みは、スタジアムがただの観戦場所であるだけでなく、すべての人にとっての居心地の良い空間であるべきだという信念に基づいています。→





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

センサリールームの整備・運用という大きなプロジェクトを知り、私たちもセンサリールームの機能向上や普及に貢献できるのではないかと考え、5月にセンサリールームが実際に運用されているところを視察させて頂くことになりました。

私たちも、スポーツイベントの場が、感覚過敏を含むさまざまな方々にとってもアクセシブルであるべきだと考えております。センサリールームの普及を通じて、さらに多くの人々がスポーツの楽しさを体験することができるようになるかと信じています。

次回は、このセンサリールーム視察について報告をさせていただきます。

・理事 朝吹英介より

日頃は協会の活動に際し、ご支援を頂きまして有難うございます。

2024年3月末をもって第3期が終わり、第4期の活動がスタート致しました。活動開始以来毎月1度、東京、福岡、大分を結んだWebミーティングと、日々、LINEグループでのやり取りを重ね運営をしております。第4期はサウンドソムリエ検定の1級・2級を同日開催するなど運営の合理化をしながら、各事業をどのように深化させて、推進していくか、議論を重ね、着実な前進を果たしていきます。

活動のなかでは、思いがけない方とのご縁を通じて、新たな展開に進んでいくことが多々ございます。例えば、前回のレポートでご報告しました通り、SNSでの「音のユニバーサルデザイン事業」に関する拡散においては、聴覚過敏（聴覚防衛反応）をはじめとする、音への課題を抱える多くの方から、お声を頂戴いたしました。この声を伝播させていくには、一過性でない継続的な活動が肝要であると考えております。

第4期もみなさまからの変わらぬご厚情を賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。





International Sound Articulation & Adjustment Association

No.
03

Activity Report

2024年
4月

アクティビティレポート

伊東俊郎のサウンドコラム



私は音楽録音業界に入ってから48年、現在もレコーディングエンジニア&サウンドプロデューサーとして活動しています。

今回は音源制作者側の「聞く」と「聴く」に対する意識の違いをお話します。「聞く」は意識をしなくても耳に入ってくる状態でBGMは「音楽を聞く」です。「聴く」は意識的に耳を傾ける状態で、好きなアーティストの曲は意図的なので「音楽を聴く」です。

「聞く」から「聴く」に導くために音源制作者は作業をします。「メロディ・歌詞」や「音色・音像・リズム」を時代に合わせ、時代を先取りして企画・制作します。「聴いてもらう」が売上に大きく関わってきます。録音的にはドラムスなどの「リズム楽器の音作り」と「歌などの主旋律の音像・音作り」がポイントになります。ビートの基本となるドラムスはクリアなアタックと豊かな低音を録音するため楽器本体の不要な響きを意図的に制御し（整音）マイクを音源の近くにセットします。「歌」は艶やかな響きと声の個性をハッキリさせるため収録場所の余分な響きをおさえ（調音）必要な音域のみがマイクに入るように制御します。ここに原音再生の概念は無く「聴いてもらう」ためのデフォルメと色付けをします。絵画制作と同じです。

伊東 俊郎 (いとう じろう)

主な作品、アーティスト (一部サウンドプロデューサーでも参加)

TM NETWORK (デビューから現在まで 「GETWILD」

「SELFCONTROL」等)、小室哲哉、米米CLUB (デビューから1st解散まで) (「浪漫飛行」「君がいるだけで」)、山下達郎 (アルバム多数)、江原啓之、久石譲 (崖の上のポニョ・箱根駅伝テーマ曲等)、ゆず、家入レオ、岡崎体育、木村カエラ、Little Glee Monster 等

